子どもにとっての表現を考える
―音楽表現を中心に―

仲　野　悦　子

Considering child expressions
―Mainly the musical expression―

Etsuko Nakano

Summary

While investing changes of the outline of nursery schools, I have attempted to think about an ideal method of music expression and to study the point where the infant goes on to elementary school. As a result of understanding the importance of the role of music in the bringing up or infants, and understanding effective methods, music expression becomes simple and dynamic.

Key words：expression musical expression elementary school

はじめに

５月のさわやかな早朝、まだ生活音が聞こえない時間、朝の気持ちのよい空気とヒヨドリであろうか小鳥のさえずりが耳に心地よく響いてきた。よく耳を澄まして聴いていると、２羽の小鳥のさえずりには、お互いに何かを伝えようと会話しているかのようなやり取りをしていた。その中にはリズムがあり、ピィーピピピィー・ピィーピピピィー(♩♬♩・♩♬♩)、ピピピピピィー・ピピピピピィー(♬♬♩・♬♬♩)などさまざまな鳴き声が聴き取れ、一時を楽しませてくれた。

このように身近な日常の生活の中にでさえ音楽の基本的な要素であるリズム・音色・ハーモニーが感じ取ることができる。まして、保育者が意図的に音楽を取入れることによって、子どもの遊びや活動はより分かりやすく、よりダイナミックに展開できるのではないだろうかと感じた。

目的

この４月から保育所保育指針や幼稚園教育要領が改定実施となった。特に、保育所保育指針ではそれぞれの保育所の独自性や創意工夫された保育の取り組みなどが求められ、内容的には13章から７章へと大綱化されている。幼稚園教育要領と同じく長期的な視野から就学前までに育つ心情・意欲・態度が示されている。同じように人的環境である保育者自身の保育における心情・意欲・態度が子ども達の育ちに大きな影響を与えることは周知のとおりである。この機会にもう一度原点に立ち戻り、保育内容、領域「表現」を検討してみることにした。

Ⅰ　将来保育者になるであろう学生に対し質問を試みた。その中で子どもにとって表現する

ことの意味、表現領域の１つである音楽の効果や役割、表現領域から子どもを支える保育者の役割をみる。

Ⅱ　幼児歌曲の果たす特色や効果を検討する。また、創作作品の事例から音楽表現の役割を考える。

Ⅲ　小学校との接続という観点から、「音楽指導書」をもとに小学校１年生の教科「音楽」実際を検討する。

１　「表現」を考える

保育内容〈表現〉の授業の中で次のような①「表現」とは何か。②「表現すること」（表現手段）とはどのように考えるかの質問を投げかけ、それぞれのキーワードを挙げてみた。また、保育者としての役割を次のように考えていた。

１－⑴「表現」とは

○コミュニケーションの成立。
○生きていく上で共に歩んで行く人と理解し合い、自分を豊かにするために必要なもの。
○楽しさ・楽しむ・楽しみ。
○意識的に内なるものを表に表わすこと・現れたそのものをいう。
○感覚・感情の表現。
○イメージの拡大。
○オリジナリティー。
○受容。
○自己肯定感。
○言葉・音楽・絵画。

１－⑵「表現」するとは？　（表現手段）

●感じること。
●イメージすること。
●自分らしく伝えること。
●身近な感覚・感情、欲求・要求、考えたこと・知っていること・思ったことなどを伝え何らかの形として表わすこと。
●日々の生活に敏感になること。
●常に磨き続けていくものである。
●保育者が表現者であること。
●保育者が表現を支える要素に敏感であること。
●保育者の姿を通して、子ども達に「表現」の幅を広げること。
●あらゆる素材を用いること。
●自ら行う・自ら楽しむこと。
●一人ひとりの特性に応じる・個性を受けとめること。
●遊びを通して行うこと。
●子どもに共感し、自らも育つこと。

●身の回りの「自然」を感じる。（新たな発見・重要な要素）
●他者の「表現」に触れること。
●豊かな感性を育む・生きる力を育むこと。

1－(3)　保育者の役割

＊子どもは自由にのびのびと内なるものを自分なりに伝えていくべきである。保育者は、その思いを受け止め、子どもに自信を育むことが大切である。そして、子ども同士でも伝えあい、本当に伝わる表現ができるような方法を考え、伝えていくことが大切である。
＊保育者は、子ども達が自分の思いを「表現したい！」と思えるように、表現しようと思うもののイメージがつかみやすい環境を提供し、上手・下手に関わらず一人ひとりの個性や工夫を認め、「できた！」という喜びを一緒に味わい感動することにより次に繋げていく。
＊保育者として子どもに多くの表現活動ができるように工夫することが必要である。今は多くの保育資料があり、それを見れば何を用意し、どのような手順で行えば良いのかすぐにわかる。しかし、一度子ども達に体験させる前に保育者が行ってみることが大切である。自らの手で自分の表現をする。本を読むだけで解らなかった難しさや楽しさを知り、その活動がどのようなものであるか理解することができる。そして、子ども達の実態に合わせた工夫ができ、繰り返し行うことによって自分なりの様々な表現や“子どもの表現をうまく引き出す表現”を自らの体験を通して身につけていく。保育者は、日々の生活の中で子ども達と共に創り出していくことが大切である。

2　「音楽」を考える

日頃、自分の生活や教育・保育実習などを通して保育者として音楽の果たす役割や効果をどのように感じているのかをみた。また、実際実習を通して現場で行われている音楽活動を伴った保育事例をあげ、役割や効果を考える。

2－(1)　音楽とは

◇聞いて楽しい気分になるもの。　―　娯楽面
◇日常生活の中で当たり前のようになくてはならないもの。（生活の中の一部）
◇劇などでその場の状況をより分かりやすくするための手段。
◇人の気持ちを引きつけるものがある。（何だろうと耳を傾ける・活動が楽しくなる）
◇音というものは、生まれる前から親しんでいるものである。（お母さんのお腹の中にいる時の心臓の音（リズム）、話す時の振動の中で自然に体に染みついている）
◇音楽で表現するというのは自己表現である。楽しい気持ちや悲しい気持ちなど自分自身を出すことのできるとても大事な役割を持っている。（思いをはっきり言うことができない自分であるが、歌うことが好きで、小・中・高と合唱を通して自分の思う気持ちを表現していった）
◇音楽を聴くと、なぜか体が動いたりする。それは大人も子どもも同じであり、言葉とはまた違った形で何かを伝えることができる。音楽には人の心を動かし、体まで動かしてくれるようなパワーを持っている。
◇一人の人から多くの人まで、人に何かを伝えるための手段である。普段言えないことを表現

したり、子どもに伝えるには難しいことを伝えたりするなど言葉では伝わりにくいことでも音楽を加えることによってできる。

◇自分の表現の幅を広げるだけではなく、年齢を問わず受け入れられる表現の仕方である。言葉のように学ぶことをしなくても知らず知らずのうちに馴染み楽しむことができる。幼児教育においてはとても分かりやすく、印象に残りやすい表現方法である。

◇音楽は絵本や紙芝居とは少し違い、体で感じたり、その感じたことを表現できるものと思う。音楽は心で表現することができるので、心を豊かにするという意味がある。

2－⑵　保育における音楽とは

◆子どもにとって毎日触れるもの。
◆子ども達の活動を促すもの。
◆子ども達が体を動かして楽しむためのもの。
◆子どもの表現力、イメージを広げるもの。
◆子ども達を一つにまとめるもの。
◆音楽を通して子どもと子どもとのコミュニケーションが生まれている。
◆リズム感が身に付くとともに、歌を歌ったりする中で言葉を覚え、話す力や聞く力も身に付く。

2－⑶　保育者の役割

＊言葉だけで伝えることが難しくても、その言葉にメロディーをつけるだけで子ども達に伝えたり、理解させている。（「ボタンとボタンを合わせたら……」と一緒に歌いながらたたみ方を覚えることができていた）

＊一つの歌を子どもが歌い込めるまで繰り返し歌う。結果、大きな声で自信を持って歌えるようになり、音楽の楽しさを感じることができるようにしていた。そして、大きな声で歌えるようになったら、友だち同士で手をつないだり、足踏みや動作を付けて歌っていた。まずは、音楽を楽しむことがとても重要である。

＊歌を歌うことの楽しさ、音楽に合わせて踊ったりすることの楽しさを大切にしている。

＊いろいろな場面で音楽は使われている。使う場面を計画的に検討することが大切である。

＊子ども達の楽しみ・癒しである。（保育者が癒しの曲をピアノで弾いている間、子どもは椅子に座り机に手をおいて静かに聴いていた）

3　幼児歌曲の特色

音楽は、保育の中で領域「表現」活動の歌う・弾く・聴く活動だけではなく、子ども達の様々な活動をある時はダイナミックに、ある時は穏やかに伝える効果を生み出している。将来保育者を目指す学生に、保育者として一緒に楽しむ幼児歌曲を30曲を選曲し、その曲の持つ音楽理論上の特色や歌詞などから感じられる特色あげてみることにした。

方法　　対象者：　2007～2008年度　「基礎音楽」履修学生205名
　　内　容：　幼児歌曲30曲の曲名・作詞者・作曲者・調子記号・拍子記号・速度記号・音程・歌詞から歌の特徴をあげ、特色をみる。

3－(1)　幼児歌曲が子どもに果たす役割と効果

結果的にさまざまな特色をもっていることが理解できた。この特色を５つに分類してみた。

①コミュニケーションとしての音楽

・友達同士みんなで歌える。

・親子・祖父母とともに一緒に歌える。

・昔から歌い継がれている童謡もあれば現在親しまれている童謡もある。年代に関係なく親しまれている。

②想像力を豊かにする音楽

・明るい・楽しい・軽快・可愛い曲が多い。

・曲や歌詞に物語（ストーリー性）があり、想像しやすい。１・２・３番と続く曲が多い。（語りかけるような歌、お話するような歌）

・標題音楽になっている。曲名が分かりやすく歌詞の中に関連する言葉がある。

・夢のある歌詞の歌である。
（動物が話す。‥‥だったらいいのになー！・おもちゃが動くなど）

③子どもの生活や遊びに沿った音楽

・歌詞が家族・自然・遊び・行事に合わせた曲が多い。生活に密着した題材や関連した言葉が使われ、子どもにも理解しやすい。

・幼児の生活習慣に関わる歌詞の曲が多い。
（朝やお帰りの挨拶・給食・歯磨き・手洗いなど）

・動物、虫、植物など自然に関連した曲が多い。

・歌を通して活動の内容や動きを発展・繋げていくことができる。

・曲が短く、繰り返しがあり覚えやすい。（言葉・リズムの繰り返し）このため、子ども達は普段の遊びの場からも自然に口ずさめ、活動をより楽しむことができる。

・歌遊びができる。

・歌うことを通して日本の四季を感じることができる。

④身近で親しみやすい音楽

・リズムと言葉のおもしろさを感じることができる。

・擬音語（チャチャチャ、コンコンコンクシャーン、ピィピィピィ、シュシュシュ）が歌詞の中に取り入れられ、歌うことによりリズム感を出している。

・メロディーが明快・簡潔・素朴なため、覚えやすくいつでもどこでも口ずさみやすい歌が多い。

・前奏がはっきりしており、子ども達にとって歌いだしやすい。

・歌詞が子どもの心を表現していて親しみやすい。共感できる歌が多い。

・歌うだけではなく、曲に合わせて手遊びをしたり振り付けたりするなど体で感じて歌うことができる。

・アニメで歌われている曲があり、何回もテレビなど聞き親しんでいるせいか歌いやすい。

⑤音楽（理論）的な特徴

・スタッカートやスキップのような弾むリズム・マーチなどが多く使われ、軽快さを感じる。（付点音符・８分音符・16分音符・スタッカートなど）

・ハ長調・ヘ長調・二長調の明るい曲が多い。短調の曲が少ない。

・移調しやすく、音域・リズム・歌詞を変化させて楽しむことができる。
（手遊びなどいろいろなバージョンで変化させて楽しむ）
・♩＝90～100　の速さ・Moderato・Allegrettoの速さの曲が多い。
・殆どの曲に“明るく楽しそうに”と指定され、子どもが楽しく歌えるようになっている。
・４分の２拍子・４分の４拍子のような単純拍子の曲が多い。
・音程は５～９度の曲が多く、幼児の音域を考えた曲作りがなされている。
・作詞者と作曲者が同じペアで曲作りをしていることもある。
・外国の民謡からメロディーを取り出している曲がある。

３－⑵　幼児歌曲ベスト30

ここに自分が保育者として子ども達と一緒に歌いたい曲をそれぞれ30曲選曲した結果、複数の選曲者（３名以上）の曲を表にしたものである。103曲の中には、自分たちが幼い時から歌って親しんだ曲が多く含まれている。〈ちょうちょう〉・〈まめまき〉・〈みずあそび〉などは100年以上歌い継がれ、18曲が50年以上慣れ親しんだ歌でもある。タイトルを見ただけでイメージしやすい歌、単純明快で誰もが分かりやすい歌など多数ある。

表－１　「私が選んだ幼児歌曲ベスト30」　　対象学生101名（H21・１実施）

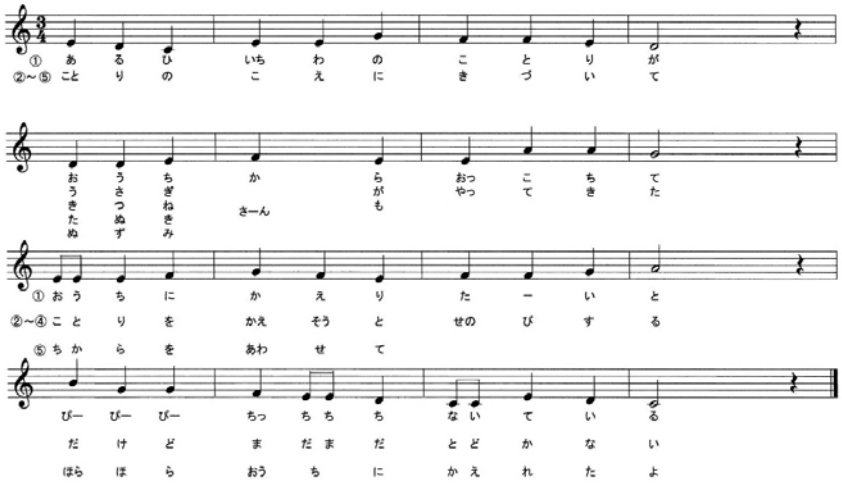
番号	曲　　目	選曲人数	番号	曲　　目	選曲人数
1	大きな栗の木の下で	83	20	ちょうちょ	60
2	どんぐりころころ	81	21	まつぼっくり	60
3	あわてんぼうのサンタクロース	75	22	たきび	58
4	おかえりの歌	74	23	おべんとう	57
5	おもいでのアルバム	73	24	握手でこんにちは	55
6	チューリップ	73	25	手のひらを太陽に	55
7	お正月	70	26	森のくまさん	53
8	ゆき	70	27	さよならのうた	50
9	うみ	69	28	おててをあらいましょう	46
10	こいのぼり	67	29	おもちゃのチャチャチャ	46
11	やきいもグーチーパー	67	30	うれしいひなまつり	46
12	先生とおともだち	66	31	南の島のハメハメ大王	43
13	山の音楽家	64	32	おかたづけ	40
14	一年生になったら	62	33	となりのトトロ	40
15	小鳥のうた	62	34	おはようのうた（田中・河村）	38
16	ジングルベル	62	35	犬のおまわりさん	38
17	キラキラ星	60	36	とんぼのメガネ	34
18	しゃぼん玉	60	37	めだかの学校	34
19	七夕さま	60	38	アンパンマンマーチ	33

40	歯をみがきましょう	30	73	赤鼻のトナカイ	6
41	ありがとうさようなら	28	74	おつかいありさん	6
42	コンコンクシャーんのうた	28	75	お花が笑った	6
43	ミッキーマウスマーチ	27	76	おはようのうた（増子・本多）	6
44	アイアイ	26	77	かたつむり	6
45	まっかな秋	26	78	手をたたきましょう	6
46	そうだったらいいのにな	25	79	どんな色がすき	6
47	小さな世界	25	80	春	6
48	豆まき	24	81	むすんでひらいて	6
49	おかあさん	23	82	宇宙船のうた	5
50	おおきな古時計	22	83	ドラえもんのうた	5
51	あめふりくまのこ	21	84	ドレミのうた	5
52	北風小僧の寒太郎	21	85	ハイホ	5
53	アイスクリームのうた	20	86	ハッピーバースデーツ―ユー	5
54	誕生日	19	87	お山のラジオ体操	4
55	さんぽ	18	88	おんまはみんな	4
56	水あそび	17	89	はじめの一歩	4
57	きよしこのよる	16	90	ビビディ・バビディブー	4
58	とんでったバナナ	16	91	ほ！ほ！ほ！	4
59	雪のこぼうず	15	92	おさるくん	3
60	雪のペンキやさん	15	93	うんどうかい	3
61	こおろぎ	14	94	崖の上のポニョ	3
62	もみじ	14	95	きのこ	3
63	線路は続くよどこまでも	11	96	北の国から	3
64	ふしぎなポケット	11	97	クラにネットこわしちゃった	3
65	やぎさん郵便	11	98	サンタさんが町にやってくる	3
66	菊の花	10	99	幸せなら手をたたこう	3
67	小さい秋みつけた	10	100	友達賛歌	3
68	バスごっこ	10	101	虹のむこうに	3
69	こぎつね	8	102	ぼくのミックスジュース	3
70	世界中の子どもたち	8	103	よいこのあいさつ	3
71	人間ていいな	8			

4　想像力を高めるための音楽

ここに、子どもたちの想像力を広げていく創作絵本を紹介する（学生作品）。メロディーは親しみやすく、登場人物もひよこ・うさぎ・くま・ねずみなど子ども達だれでも知っている動物である。ストーリーも何度も繰り返えされるという単純明快な分かりやすいお話である。実際この創作音楽絵本「おともだち」を２歳児の子ども達に読んでみたところ、とても集中して聞いていた。そして、全員の子どもが興味を示し、もう一度読むように促された。そこには、お話の内容がよく理解し登場人物になりきってしまっている子ども達の姿があった。そして、改めて音楽の果たす効果を知る経験であった。お話にメロディーやリズムを加えることによってそれぞれの場面がより具体化され、動物たちの力を合わせて小鳥を巣に返そうとする活動が一層リアルとなり自分の世界へと広がっていったと思われる。音楽とお話を効果的に合わせることによって子ども達の想像力はより一層の広がりをみせ深められたと考える。

4－(1)　作品「おともだち」

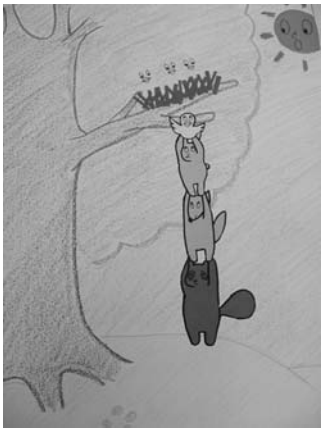


①

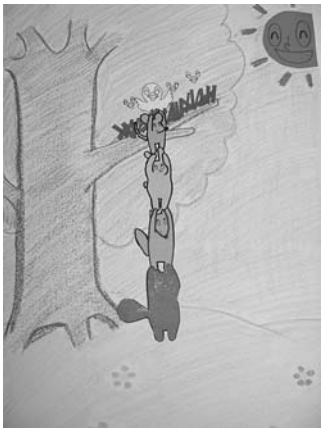
②

③

④



⑤



4－⑵　手作り音楽絵本「おともだち」や音楽つき紙芝居を見ての感想

将来保育者になろうとしている学生に創作音楽絵本や手作り音楽紙芝居（「３匹のこぶた」・「山の音楽家」・「「森のくまさん」・「赤鼻のトナカイ」）などを照会した。その感想を通して音楽の果たす役割を考えてみた。

・手作りということで温かみを感じた。
・音楽をつけて読む紙芝居は普通に読むものと違いイメージしやすく、楽しく見ることができ集中することができた。
・幼児歌曲を絵にして表わすことにより曲のストーリーが明確になり、メロディーを加えることにより動きのあるものになった。よりリアルにすることにより子どもたちの興味をひくことができると思う。
・幼児歌曲の特徴としてストーリー性があるが、そのストーリーにさらに自分なりに創ったストーリーを絵にして加えることよって、また、別な作品に見えてきてその絵や歌に引き込まれていった。
・音楽は歌う・聴く・演奏するだけではなく、幼児歌曲を絵本にしたり、歌詞を中心に１つの物語を展開したり、お話にメロディーをつけたりいろいろな表現方法があることが分かった。
・子どもは手遊びも絵本も紙芝居も大好きである。そして、歌うことも大好きである。普段は、これを一つずつの単位で楽しんでいるが、これらの好きなものを合わさるとさらに楽しくなるだろう。

5　小学校との連続性を考える

保育所保育指針や幼稚園教育要領の改定にともない乳児から高等学校までが一貫性をもって「生きる力」の養成が問われている。小学校以上の生活や学びの基礎である幼稚園や保育所の活動がどのようにして小学校へ連続していくのか、また、接続していくのかが問われ、一貫性のあるカリキュラムの構築を目指し、今まで以上に乳幼児期（保育者）から学童期（教師）への連携の在り方が模索されようとしている。ここで、小学校１年生の教科「音楽」の学習内容を検討することにより領域「表現」の音楽教育の在り方や連続性を考えていきたい。

5－⑴　小学１年生における題材

導入的音楽学習・深まる音楽学習・広がる音楽学習とする三層構造の題材構成は各学年ともに７つにまとめられ、低学年（１・２年生）［楽しく］・中学年［進んで］・高学年［創造的に］と小学校６年間を段階的かつ系統的に関連させながら学習できるようにまとめられている。その中で「表−２　小学校１年生における音楽の題材」は１年生のみの題材の流れをまとめたものである。

この題材の設定は成長発達の著しい子どもや個人差のある乳幼児の子どもに対して当てはめることができるのだろうか。幼児教育では題材設定や教材などの選択は個々の保育者の資質に委ねられている。自分のクラスの目の前の子ども達の姿からそれぞれの年齢の発達を見据えたうえで、ねらいを定め保育者の創意工夫によって題材設定をするのである。保育所保育指針「第２章　子どもの発達」においても、おおむね６か月未満からおおむね６歳までとする８つの区分の年齢構成による発達過程の特性は示されている。そこには、同年齢の子どもの均一的な発達基準ではなく、《一人一人の子どもの発達過程としてとらえるべきものである》、とあえて記されている。

１年間、成長発達の著しい子ども達には、決められた学習過程での保育は難しい。それぞれの発達の姿から、その年齢や個々の発達のめざす指標と５領域を見据えた活動が展開されなければならない。まず保育者は目の前の子ども達の姿をじっくりと観察することから始まる。観察→計画（環境構成）→実践→評価・反省の流れを常に繰り返しされつつ日々の保育がある。

そこには保育者の創意工夫があり、保育者の力量が常に求められている。そのことを考えるとより一人ひとりの専門職としての役割と技量、教材研究が一層求められている。

5－⑵　音楽学習指導概要

低学年の指導概要として「リズムに対する感覚を育てることに重点を置きながら、音楽的な感覚と表現の基礎技能を系統的に身につけていくようにする」とし、３つの表現技能と鑑賞活動を挙げている。そして、これらの学習が子ども達にとって特に「楽しい」と実感できる活動展開となるような工夫や個々の子どもの良さを生かす活動が求められている。

小学校１年生の、歌ったり演奏したりする音楽技能による指導は、まづ自分の体で感じさせる体験を取り入れている。身体表現や手拍子でリズムを感じさせたり、それぞれの曲の階名模唱や歌詞の暗唱によって自分のレパートリー曲となるように歌いこんでいる。この指導方法は、幼児期の子ども達にも通じるものであり、曲を取り上げるときの練習方法でもある。練習過程において、だんだんイメージが膨らんでいき、その曲が自分のものになった時初めて自分独自の表現ができるのである。この過程を日頃の保育のなかで少しずつ積み上げていきたいものである。

5－⑶　小学１年生の音楽学習の観点（評価基準）「関心・意欲・感受」

１年生の学習として興味・関心・意欲を育てることをねらいとしている。教科「音楽」において音楽を表現するためのさまざまな感覚や技能の基礎を体験し学習してきた。１年間の評価として能力や技能だけではなく、一人ひとりの感性や関心の面からの工夫も大切としている。

保育における学びの観点を考えるとき、音楽的表現技能よりも音楽への関心や意欲や態度の面からの観点のほうが大きい。観点を踏まえた保育計画や活動がなされているか、環境設定は充分であるのか、子ども達の意欲が引き出されているのかなど、評価として保育者が試されることになる。

表−2　小学校１年生における音楽の題材

構造	題材構成	題材	題材のねらい	学習活動	教材
導入的音楽学習	友達づくり	うたでともだちをつくろう	・音楽活動の楽しさに気づいて、進んで表現しようとする意欲を育てるようにする。 ・友達と一緒に歌ったり身体表現をしたりする楽しさを感じ取ることができるようにする。	えのなかからうたをみつけてうたいましょう。	うたでさんぽ
				うたいながらなかよしになりましょう。	ぞうさんのさんぽ てとてであいさつ
				おんがくにあわせてみんなであるきましょう。	ミッキーマウスマーチ ひらいたひらいた
	導入	おんがくにあわせてあそぼう	・歌ったり身体表現をしたりして、拍の流れを感じ取ることができるようにする。 ・拍の流れを感じながら、簡単なリズムを表現することができるようにする。	てびょうしにあわせてあそびましょう。	まねっこあそび
				おんがくにあわせてからだをうごかしましょう。	せいじゃのこうしん たぬきのたいこ　かたつむり
				じゃんけんであそびましょう。	じゃんけんぽん
				けんぱであそびましょう。	けんけんぱ　うみ
深まる音楽学習	重点事項（音楽の三要素）	リズムにのってあそぼう	・歌ったり身体表現をしたりして、リズムの違いを感じ取ることができるようにする。 ・拍の流れに乗って、簡単なリズムを表現することができるようにする。	おんがくにあわせてリズムをうたったりおどったりしましょう。	しろくまのジェンカ
				うたのリズムであそびましょう。	てをたたきましょう
				「たん」と「たた」のりずむであそびましょう。	ぶんぶんぶん
				「たん」と「たた」のりずむでことばあそびをしましょう。	ことばあそび
	音色	いい音を見つけてあそぼう	・音の響きや違いに気づいたり、音の出し方を工夫したりして、音に関心をもつようにする。 ・階名で模唱や暗唱をしたり、これをもとに楽器で演奏したりすることができるようにする。	［ど］と［そ］のおとをふきましょう。	どんぐりさんのおうち
				すきなおとをふきましょう。	ばすばすはしる
				いろんなおとにきをつけてききましょう。	みつばちの冒険 音あそび　ひのまる
				きれいなおとでふきましょう。	おちば
	曲想・イメージ	ようすをおもいうかべよう	・楽曲の気分を感じ取って、想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする。 ・歌詞の表す様子を思い浮かべて、歌い方を工夫することができるようにする。	こねこのようすをおもいうかべながらききましょう。	おどるこねこ
				おほしさまによびかけるようにうたいましょう。	きらきらぼし
				ばめんのようすをおもいうかべながらうたいましょう。	はるなつあきふゆ
広がる音楽学習	合唱・合奏	みんなであわせよう	・楽器の音色や響きを感じ取って、聴いたり演奏したりすることができるようにする。 ・互いの声や音を聴きながら、拍の流れを感じ取って演奏することができるようにする。	いろいろながっきのおとにきをつけてききましょう。	かえるのルンバ
				うたとがっきをあわせてえんそうしましょう。	とんくるりん　ぱんくるりん
				きれいなおとでがっそうしましょう。	こいぬのマーチ
				よびかけあってうたいましょう。	アイアイ
	まとめ	のびのびとうたおう	・発音や声の出し方に関心をもって歌ったり、みんなで声を合わせて歌う喜びをあじわったりすることができるようにする。	みんなでこえをあわせてうたいましょう。	そろそろはるですよ

表−3　音楽指導概要

	表現技能	低学年（1・2年）の活動	1年生の活動
1	リズム感覚と表現技能	拍の流れの乗って簡単なリズムフレーズを表現する。	・拍の流れを感じ取りながら身体表現や手拍子によるリズム打ちをする。 ・音楽に合わせて身近な打楽器を打つ。
2	歌声による表現技能	みんなで歌声を合わせる。	・範唱や伴奏に注意して歌う。（発音や声の出し方などに関心を持って歌う）
3	楽器による表現技能	階名模唱や暗唱を機会あるごとに経験する。	・身近な打楽器の基本的な奏法を知る。奏法によって音色が変化することを体験する。
4	創造性を高める表現と鑑賞活動	表情豊かに表現したり想像性豊かに鑑賞したりする体験を段階的に積み重ねていく。	

表−4　小学1年生の音楽学習の観点 「関心・意欲、感受」

	観点	評　価　基　準
1	音楽への関心・意欲・態度	・進んで歌ったり、楽器を演奏したりしようとしている。
		・自分の感じたことや考えたことを進んで発表したり、工夫したりしたところを友達に聴いてもらったりしようとしている。
		・工夫する活動において、友達と積極的に相談したり、友達の意見や表現を聴いたりしようとしている。
		・身体表現や身体反応をしながら、音楽に興味深く耳を傾けている。
2	音楽的な感受や表現の工夫	・歌詞の内容や楽曲の気分を感じ取って、歌い方や身体表現を工夫している。
		・きれいな歌声に気づいて、発音・口形・声の出し方などを工夫している。
		・楽曲全体の感じをつかんで、鍵盤ハーモニカやハーモニカの旋律奏を工夫している。
		・音色の違いを感じ取り、イメージをつかんで音をつくったり、つくった音を生かして表現を工夫したりしている。
		・音色や歌と楽器の音のバランスなどに気を付けて、演奏の仕方を工夫している。
3	表現技能	・範唱や範奏を聴いて、リズムや音程を正しく模唱したり模奏したりすることができる。
		・伴奏に乗って歌ったり、歌に合わせて手拍子や打楽器でリズムフレーズを表現したりすることができる。
		・はっきりした発音や柔らかい歌声で歌うことができる。
		・鍵盤ハーモニカやハーモニカで、正しいリズムや音程で旋律を演奏することができる。
		・打楽器を使って、場面の様子やイメージに合った音をつくって表現することができる。
4	鑑賞の能力	・きれいな歌声や楽器の音色に気づいて、範唱や範奏を聴くことができる。
		・場面の様子を思い浮かべたり身体表現をしたりして、音楽を聴くことができる。
		・拍の流れを感じ取ったり、主な旋律の変化を感じ取ったりしながら、音楽を聴くことができる。
		・音色の違いを感じ取って、身体反応に生かしながら聴くことができる。

おわりに

保育における音楽の役割は、日常的に様々な活動の中で繰り返されているように大きな役割を担っていた。音楽は一人ひとり自らの思いを伝える手段であり、仲間とも共有する手段でもある。保育者は、目の前の様々な個性のある子ども達の姿をしっかりと実態把握し、独自性のある園としての計画と個々のクラスの保育を計画し運営していかなければならない。また、小学校の教科指導と異なり、様々な取り組みの中には５領域の保育内容が組み込まれているように配慮しなければならない。〈発達を踏まえた保育〉・〈環境を十分考慮された保育〉・〈遊びから発展した保育〉・〈一人ひとりを大切にした保育〉など様々な要素が入り組んだ幼児教育・保育を考えるとき、保育者が果たさなければならない役割や職務内容はとても大きい。日頃、目先の活動に流され慌ただしく１日が過ぎていくなかで、自分の保育を振り返り見直すことがとても大切に思われる。子ども達に『生きる力』の基礎を培うためには、日頃の保育の取り組みや保育者間の連携など保育者自身の人的環境による影響が大きいと考える。

参考文献

・畑中良輔ほか７名著『小学生の音楽１指導書（研究編）』教育芸術社　2008